

たくさんの

みなさまへ!

7月26日の報道から、毎日悲しみ、憤りと複雑な気持ちが入り混じる日々を過ごしていません。また新しい事実が出るたびに、益々気持ちが沈んでいきますが、早々に26日に、「全国手をつなぐ育成会連合会」と「きょうされん」からこの事件についての声明文が出されました。とりわけ手をつなぐ育成会 久保会長様から出された、利用者さんに向けてのメッセージに、職員である私達たちも、また頑張れる力をもらいました。はぐるまの仲間(利用者さん)たちにもこのメッセージを伝え、これからの活動に自信をもって進んでいけるよう、お話をした次第です。

メッセージを全文掲載させていただきます。

津久井やまゆり園の事件について (障害のあるみなさんへ)

(※見出しのように漢字には全てふりがながついていますが、紙面の関係で省略いたしました)

7月26日に、神奈川県にある「津久井やまゆり園」という施設で、障害のある人たち19人が殺される事件が起きました。

容疑者として逮捕されたのは、施設で働いていた男性でした。亡くなった方々のご冥福をお祈りするとともに、そのご家族にはお悔み申し上げます。

また、けがをされた方々が一日でも早く回復されることを願っています。

容疑者は、自分で助けを呼べない人たちを次々におそい、傷つけ、命をうばいました。とても残酷で、決して許せません。

亡くなった人たちのことを思うと、とても悲しく、悔しい思いです。

容疑者は「障害者はいなくなればいい」と話していたそうです。

みなさんの中にはそのことで不安を感じる人もたくさんいると思います。

そんなときは、身近な人に不安な気持ちを話しましょう。みなさんの家族や友達、仕事の仲間、支援者はきっと話を聞いてくれます。そして、いつもと同じように毎日を過ごしましょう。

不安だからといって、生活のしかたを変える必要はありません。

障害のある人もない人も、私たちは一人ひとりが大切な存在です。

障害があるからといって誰かに傷つけられたりすることは、あってはいけません。

もし誰かが「障害者はいなくなればいい」なんて言っても、私たち家族は全力でみなさんのことを守ります。ですから、安心して、堂々と生きてください。

平成28年7月27日

全国手をつなぐ育成会連合会 会長 久保 厚子

No.94

2016年8月12日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区

菅馬場1-18-17

TEL 044-946-1308

津久井やまゆり園殺りく事件に思う

理事長 紅谷 卓男

平成28年7月26日、許されない大量殺傷事件が、発生しました。重度知的障がい者施設の元職員が、19名の入所者を殺害し26名に重軽傷を負わせました。

起きがけのTV報道で、私は言葉を発することが出来ませんでした。痛ましい、許し難い犯罪が報じられていました。

火曜日午前中は、打ち合わせのための定例出勤日です。皆さん出勤途中の報道のためか、この日は直接この話題に触れることはありませんでした。はぐるまの会の出来事だけではなく、こうした事件への即応体制の確立が不可欠だと感じました。

28日の職員会議の際に、高木理事や金田作業所管理者からはぐるまとしての考え方が示されました。

《職員としてこの事実を受け止め、差別をなくす取り組みをいつそう進めていく事》

《はぐるまの行っている活動を自信をもって取り組んでいく事》

仲間に対しては、作業所で育成会からの文書を読み聞かせ話し合いの場を設けました。

「怖い」「心配だ」「いやだと思った」

「何かあったら職員に言えばいいんですね」などと何度も繰り返し仲間の姿があったと報告が上がっています。多くは被害者の感覚で受け止めていたようです。

また「はぐるまの職員には、こんな人はいないから大丈夫だよ」と言う、「わかっているから」と言うやり取りもありました。いつもの賑やかさはなかったそうです。仲間たちの心が傷ついたことは間違いありません。

ある著名な精神科医は、犯人の一連の考えや衆議院議長宛の文章から精神疾患特有の論理的な破たんがみられない、また大麻の事件への影響は考えにくいと言っています。この事件は、計画的な大量殺傷事件に他なりません。

憲法第13条に定められた基本的な人権を有している障がい者に対する殺戮に他ならず、その「責任能力が問われる」べき事件で精神疾患者の事件でありません。

国際障がい者年から35年、3年前前施行された障がい者総合支援法、2年前に批准された障がい者権利条約、今年から施行された障がい者差別解消法をもってようやく国際的に追いついた日本の障がい者福祉を根底から否定するような今回の事件を許すことはできません。

亡くなった方々のご冥福はもとより、怪我をされた皆様には一日も早い回復を願っております。私たちは、仲間の皆さんをご家族の皆さんと同じ気持ちで支えます。地域との融和と共生に一層の工夫と努力を払い、リスクマネジメントの見直しを図ります。

胸を張って堂々と、ともに楽しい人生にくじけず挑戦します。

さく今年こそ!

「ただ今登山練習中!」

昨年、久しぶりの2泊3日での登山合宿に仲間・職員一丸となり取り組んでいた中で、マイコプラズマ感染症により体調を崩す仲間が続出し、やむなく合宿を中止。あれから約一年が過ぎました。

昨年の夏場は、一人元気を取り戻しては、また一人体調を崩すといった知らせに「登山行けるのかな?」といった不安な気持ちになりました。仲間の安全・健康面を優先し仕方ない決定だったとはいえ、時間をかけ登山実行委員会や合同練習を重ねてきた中で中止の決定は我々全員がとても悔しく、辛いものでした。

あの悔しい思いから一年、今年こそは「必ず山に行く!」「合宿を成功させるぞ」といった熱い気持ちで現在登山練習に打ち込んでいます。

今年9月20日〜22日の2泊3日で山梨県にある大菩薩嶺を中心とした登山に行つてまいります。お世話になる山荘は今年こそは、の思いで「福ちゃん荘」をお願いをしました。

7月より各作業所代表の登山実行委員に加え仲間事務局3名を加えた仲間実行委員7名と職員の実行委員4名で、週一回の会議を持ち入念に準備を進めています。7月14日からは毎週木曜日登山合同練習を行い登山に向け全員が気持ち・体をつくっています。

午前中は登山グループごとに、多摩川や稲田公園に行き、不整地・砂利道・斜面・飛び石の渡り・アスレチック等を使い、登山に必要な体力・技能を養います。斜面や不整地などの普段歩きなれない場所では、足首などの柔軟性・平衡感覚・調整力も身につける運動です。これは日常的にも、自在に動ける身体であることにつながっていきます。

もう一つ大事にしている着眼点は「連帯力」です。グループごとにまとまって移動する時は、前の仲間をよく見てついていく事・遅い仲間を待つ事等、人とのつながりを重視します。

登山に向け総合的な力を磨き一人一人が気持ちをつくっています。

この練習は厳しい日差しを避けるため午前中に行い、午後は室内で仲間自治会活動(山荘での係の分担や、バスの並び方等の学習)が中心です。

私自身も実行委員長として、日々気持ちが高まる中、同時に、今年こそはという緊張感も感じています。準備を進める中、過去の資料や映像を見返していると、そこにある仲間の生き生きとした姿に改めて、はぐるまにおける登山合宿の大切さや、仲間の合宿にかける思いを見て、役割の重圧も感じているところ です。

これから一か月半全員で力を合わせ、万全な準備を整え、終わった後晴れやかな顔で振り返れるような、そんな登山合宿にしたいと思います。(佐々木 綾太)



登山合宿に気合い一杯の仲間たち!
三点支持の練習はこんなところでも
できるのです(稲田公園にて)

さて、これが私たちの今やること・

仲間たちが頑張りたいと思っていることです。

先の事件の説明を聞いた後の 仲間の言葉

「頑張らなくちゃね!」は「こにもつながっていると信じています。」

震度7超の地震に襲われた西原村にある「NPO法人たんぼぼハウス」。自らの安全を確保するとすぐさま被災者・ボランティア・利用者への炊き出しを開始し、1回300食を朝昼晩と1か月以上フル回転で提供し続けました。そのようにして地域の復興の拠点となっている様子はTVでも全国で紹介されました。上村施設長はただでさえ人手が足りない中、地域を一軒一軒訪ね、食事に苦労はしていないか、困っていることはないかと聞いて回ったといいます。

私は、7月10日から一週間、日本障害フォーラム（JDF）からの要請で全国から集まった支援員の一人として参加しました。



上村施設長（左から2人目）と看板犬の五郎丸。良い仲間と仕事ことができました。



私が任命されたのは、たんぼぼハウスでの食事づくりでした。右も左もわからない中飛び込んだわけですが、まず頼まれたのが40人分の昼食。届いた支援物資を利用しながら右往左往。見かねた常連のボランティアさんが「みんな食事を楽しみにしているから、お金がとれるくらいのもを作るともりで」と耳打ちしてくれました。一気にハードルが上がったわけですが、それならばと奮起し、麻婆豆腐、揚げ出し豆腐、コロッケ、生姜焼き等々、徐々に臨機応変に提供できるようにになりました（ちなみに私は洗いや物担当）。

震災から3か月たった頃でもたくさんボランティアさんが食事をしに来ていました。ある昼時、一人のボランティアさんが食事を終えると、「ほんつとにたんぼぼハウスのご飯はうまい！ごちそうさま！」と言って、去っていきましました。また頑張るぞ！という表情で。

この時に私はようやくよく理解した気がしまし

た。たんぼぼハウスでは単なる「炊き出し」に妥協するのではなく、とにかくできるだけのおもてなしをして、食べ物で人を元気づける取り組みをしてきたところなのだ。

身も心もクタクタになりましたが、ここにも「積極的福祉」の在り方があった、と大事な実体験がまた引き出しに一つ増えた気がします。

東日本に比べると熊本の「困った感」は表に出なくなつたような気がします。しかし、現地現場ではリアルな困難が存在しています。例えば仮設住宅ができてても全くバリアフリーになつていないとか、高齢者や精神障害を持った方は避難所から仮設住宅への移動を拒否しているとか。これは避難所のほうが食事の心配をしなくていいからということなのですが、どれだけ震災前の生活が貧困だったかということが浮き彫りになつていのです。そして大型施設の駐車場には日中多くのペットボトルが置いてあります。これは車中泊をする人の「場所取り」。多くの人が困難な暮らしでも日中は仕事をしたり学校に行っているのでしょう。

充実した体験とともに、現実にある課題も一緒に持ち帰りたいと思います。

（金田 圭二）



上空から。ブルーシートがまだまだ目立ちます。

【連載シリーズ】

2025年問題と新オレンジプラン

②

2015年、日本の全人口における65歳以上の割合が25%を超えることとなりました。そして、2012年の段階で65歳以上高齢者の7人に1人が認知症と推計され、軽度認知障害を合わせると実に65歳以上高齢者の4人に1人が該当すると言われています。

厚生労働省認知症施策検討プロジェクトチームは2013年から2017年にかけての暫定施策として「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」を策定しました。このオレンジプランでは、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられる社会」の実現をめざしています。

それまでの、自宅からグループホーム、グループホームから施設・病院へという流れを反対方向へ動かそうという狙いが明確に示されることとなりました。これを認知症ケアパスと呼び、その実現の為の方策を数値目標と共に明示しています。これらは「7つの視点」として掲げられました。

- ① 標準的な認知症ケアパスの作成・普及
- ② 早期診断・早期対応
- ③ 地域での生活を支える医療サービスの構築
- ④ 地域での生活を支える介護サービスの構築
- ⑤ 地域での日常生活・家族の支援の強化
- ⑥ 若年性認知症施策の強化
- ⑦ 医療・介護サービスを担う人材の育成

認知症が重症化する前に早期診断・早期対応を行うために、認知症初期集中支援チームを地域包括支援センター内に設置し、医療分野ではかかりつけ医の認知症対応力の向上、早期診断を担う医療機関の整備を行うこととしました。

また、地域ケア会議を推進することにより地域福祉の機能促進を目指し、医療・介護の連携を進めていくこととなります。認知症を支える医療・保険制度への目標指針を示す一方で、⑤地域での日常生活・家族の支援の強化を一つの項目として掲げています。認知症地域支援推進員・認知症サポーターを平成24年度から29年度にかけてそれぞれ約3倍、2倍の増員を狙いました。病院・施設から地域へとケアの場を移行するための目標が示されましたが、その実現が課題となっています。

（次回へつづく） （新井 多佳夫）

民家園商店街の皆様

ありがとうございます！

7月23日(土)、はぐるままだより93号にてお伝えをいたしました生田緑地での「森のマルシェ」イベントをご一緒している、西生田の第2はぐるま共同作業所物件オーナーさんと民家園通り商店会の会長さんのご紹介により多摩区最大規模のお祭り「第18回民家園通り商店会夏祭り」へ参加をしました！

当初より、4万人以上の来場者を見込んでお聞きしていましたが、今年度は想定を超えるお客さんで会場は開場時からフィナーレまで大賑わいとなりました。

お祭りでは、今年度の授産活動の目玉である「かわさきハーブソーセージ」の販売数の記録更新を目指し、模擬店の店構えや広報用のポップ・のぼり旗等をリニューアルし、第2はぐるま共同作業所の総力を上げて入念な準備のもと、当日を迎えました。

午後2時～8時半までと長丁場でしたが、人・人・人：で賑わう大イベントということもあり、今までに経験をしたことのない、お客さんの数に圧倒をされる結果となりました。



**嬉しいことに5時間ず〜っと、写真のような行列が続いていました！
かわさきハーブソーセージの人気に驚きです！**

「新記録を出すぞ！」と意気込んで準備をしたハーブソーセージの数は、通常の4倍の400本でしたが、閉会1時間以上前に完売する結果となり、1日の売上記録も大幅に更新をしました！

販売を担当してくれた仲間たちも『こんなに売れたのは、初めて！』『来年はもっと売れるかな』と笑顔が溢れていました。

お客さんの数に圧倒をされてしまい、肝心の『はぐるまの仲間たちが作ったハーブを使ったソーセージなんですよ！』とのアピールをする時間が少なくなってしまうましたが、「このソーセージ美味しい！どこで作っているの？」と嬉しい声に包まれていました。

完売をしたこと、売上と販売数の記録を更新したことは、もちろん嬉しいのですが、商店街の皆さんと肩を並べ、仲間たちの暮らす多摩区最大規模のイベントを仲間たちと共に盛り上げられたことに感謝します。

お祭りをご紹介いただいた会長様をはじめとする民家園通り商店会の皆様、本当にありがとうございました。

今後ともよろしくお願いいたします。

川崎市内の廃食用油を使用した リサイクル石けんの販売を開始します！

地域活動（地域清掃や緑地保全等環境活動）を一緒にしている方々のご紹介により、NPO法人川崎市民石けんプラントをはぐるま仲間自治会役員と見学してきました。

プラントでは、市内の小学校の廃食用油や消費期限切れの食用油等を回収し、環境にやさしい昔ながらの廃油石けんや事業所のトラックや送迎車に使用するバイオディーゼル燃料を工場の職員と地域活動支援センター「サボン草」「サボン草」の利用者さんと協働で製造しています。

1990年から障害のある方たちと一緒に製造・販売をしてきたという歴史の長さに

同行した自治会役員も興味深く説明に聞き入っていました。

はぐるまの会でも、廃油石けんの販売をしてきた経験があり、毎日走っている多摩川では、毎年マラソンコースを中心に清掃活動を行っています。

「廃油石けんを使うことで多摩川を汚さない為の取り組みになるんだ！」

「授産の売上にする為に、少しでも儲けられるかな？」等、仲間の代表として議論も真剣そのものです。

検討の結果、まずは小さなお店や第2作業所の店舗で「きなりっこ石けん」等の販売を開始させていただく事となりましたので、お近くにお立ち寄りの際には、ぜひ実際の商品を手にとってご覧ください！（福田 真）

きなりっこ石けんの製造プラント



100円台~の商品を取り揃えて皆様のお越しをお待ちしております！